

## ジネンジョ (ヤマノイモ科)

無病な種イモを選び、深く耕す。イモが深く伸びるので、専用パイプ、波板や畔シートを利用すると掘り取りが楽。

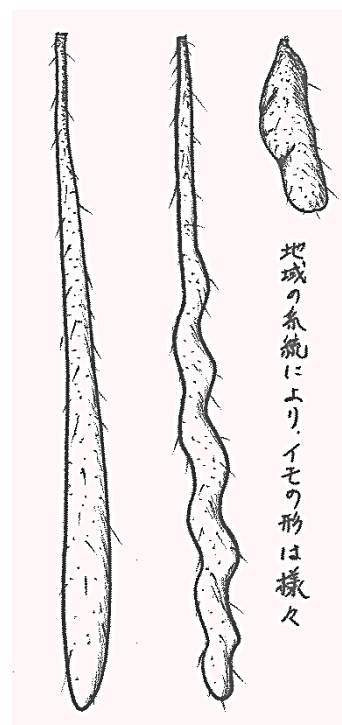
作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地				種イモ催芽 ○	定植 ◎							収穫	

### 1) 適地

日本原産のつる性植物で、有機質に富み、耕土の深い圃場が適し、日照がよいのを好みます。土壌の乾燥には弱いですが、水が滞水する圃場ではイモが奇形になったり腐敗したりするので、栽培は避けます。

### 2) 品種

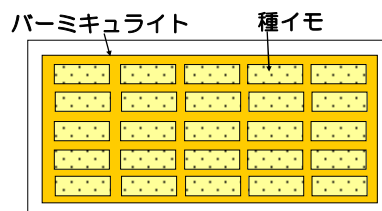
地域ごとにイモの形状が異なっていますが、他の品目ほど品種分化は進んでいません。ウイルスフリー化し、生育やイモの肥大性を改善した苗が販売されています。



### 3) 作り方

【圃場の準備】定植の1か月前に、1m<sup>2</sup>当たり堆肥 2kg、苦土石灰 100g とようりん 40g を施用し、耕耘します。1週間前に定植する部分に深さ 30cm、幅 30cm ほどの溝を掘ります。複数の畝を立てる場合は、溝と溝の間隔は 120cm ほどあけておきます。

【パイプの埋設と畝立て】肥料分のない川砂や山砂をジネンジョ用のパイプ（クレバーパイプ）に8割ほど入れ、先に掘った溝の中に斜め 15 度くらいになるように順に並べます。パイプを並べた後は、パイプの開口部の位置が分かるよう割り箸などを立てながら溝とパイプを埋戻し、畝を立てます。畝立てが終わったら、畝肩の部分に緩効性肥料を 1m<sup>2</sup>当たり 40g 施用して表面を軽く混ぜ、白黒ダブルマルチの白を表にして畝の両側から合わせるように張ります。



【種イモの準備】種イモを 1 個 100g の大きさになるよう切断して切り口を天日で 2 時間程度乾燥させます。その後農薬で消毒し、さらに日陰で数時間乾燥させます。深めの育苗箱の底にバーミキュライトを敷き、重ならないように種イモを伏せ込んだあと、種イモが隠れる程度までバーミキュライトで覆土します。十分に灌水したあと、25℃に設定した温床で乾燥しないように管理して催



種イモの伏せ込み

芽します。30～40日程度で芽が伸びてきたら本圃に定植します。

【定植】4月下旬頃が定植の適期です。目安に立てた割り箸の位置を参考にしながら、芽の位置がパイプの開口部の真上になるように穴を掘り、イモの上に土が5cmほどかぶるように定植します。この時、複数の芽が伸びているようなら勢いのよいもの1本を残して他を掻き取っておきます。晴天が続くと、定植後に芽が焼けてしまうことがあるので、マルチの上に稲ワラなどを敷いておくと安全です。

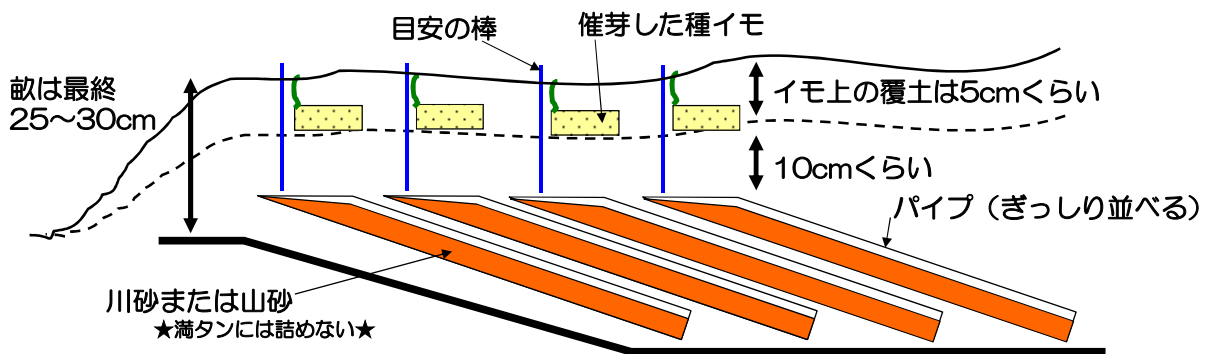
【支柱立て】支柱は、ナガイモと同様に設置します。

【追肥】7月中旬と8月中旬に、マルチ下の畝肩に高度化成肥料を1m<sup>2</sup>当たり20g施用します。

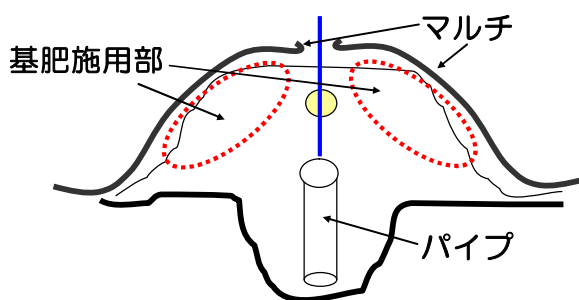
【収穫】つるが十分に枯れあがってから収穫します。早掘りすると、アクが抜けきっておらず、褐変の原因になるので注意します。春まで随時収穫できます。

#### 4) 病虫害防除

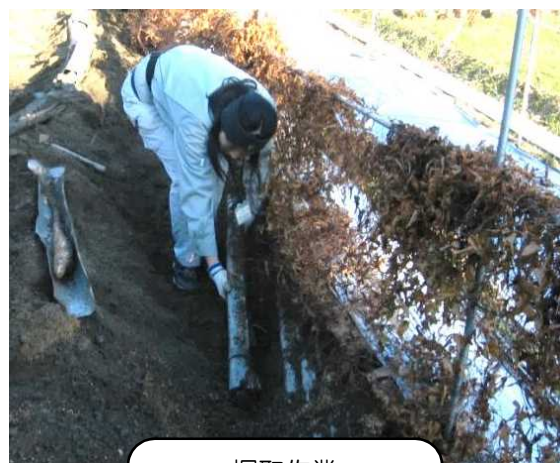
害虫では、ハダニ類、ヤマノイモコガ、アザミウマ類などがつきます。また、病害では、葉洗病、炭疽病が発生しますので、発生初期に防除します。



催芽した種イモの定植とパイプの埋設



催芽した種イモの定植とパイプの埋設



掘取作業